



## 新年度ごあいさつ



### 知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ

病院事業管理者 たんのひろあき 丹野 弘晃

論語の一節です。「知者は動き、仁者は静かなり。知者は楽しみ、仁者は寿（いのちなが）し。」と続きます。今年度から前病院事業管理者の松野正紀先生の命を受け、同業務を引き継がせて戴くことになった丹野弘晃と申します。院長職としても大変お世話になりましたが、今後とも何とぞよろしくお願い致します。松野先生は当院にとってまさに山のような存在であり、どっしりと落ち着いていて、全職員に安心感を与えてくれておりました。その物腰は泰然自若で情け深く、仁者そのものであったと思います。今後も十和田全体を包み込むような優しい眼差しで、我々を見守っていただきたいと思います。これまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

冒頭の一節についてですが、山水を例に知者と仁者を比較形容している内容です。知者は水のように隅々を潤しながら動く存在であり、仁者は重厚で慈悲深く山のように静かである。この一文と出会い、松野先生は仁者そのものだな、と改めて感じた次第です。その任を引き継ぐことになり、今後の私自身の心構えを考えていた時に、腑に落ちた一文でもありました。私は松野先生のような味は出せない人間ですし、仁者と比較された所謂道理をわきまえた知者になることもできませんが、水のように動き回ることはできそうですし、性に合っていると自己分析したところです。そこで院長職での経験も活かしながら、組織を潤す水のような存在になるべく努力する所存です。

自治体病院は地方公営企業として、医療の公共性という公営性と経営という企業性を両立させなければなりません。そして何と言っても当院は、上十三医療圏での中核病院としての使命を果たしながら存立し続けていかなければなりません。そのためにも、事業管理者としての責任を全うするためにも、昨年度まで院長職として医療に軸足を置いていた考え方を医療と経営の両立という軸足に少しシフトさせる必要があると考えています。医療の質と経営の質のバランスを強く意識しながら、今後の病院運営に取り組んで参ります。

この決意を今年度の病院目標に入れ込むこととして、「経営の透明化・可視化～経営データの説明責任を果たす～」を掲げさせていただきました。その他の目標としては、「働き方改革の推進～効率的な時間の管理・ICTの活用～」、「寝たきり防止～リハビリテーション栄養の周知～」、「国際化への対応」としており、高橋道長新院長と共に、その実現に邁進したいと思います。地域の皆様のご支援を何とぞよろしくお願い致します。



## 新年度ごあいさつ

病院長に就任しました。  
皆様よろしく申し上げます。

院長 たか はし みち なが  
高橋 道長



新年度を迎えるにあたり、全ての読者の皆様方にご挨拶を申し上げます。  
この4月から、丹野弘晃院長の後任として、病院長を拝命した高橋道長です。ここで改めて自己紹介を披露させていただきます。宮城県仙台市生まれの、仙台市育ちで、大学を卒業するまで仙台で暮らしました。私が青少年期を過ごした仙台は、新幹線や地下鉄はなく、全国的には初代仙台藩主伊達政宗と夏の七夕祭り、加えて佐藤宗幸の青葉城恋歌だけが知られていた人口50万人ほどの地方都市でした。高校時代は、仙台の北部堤町の実家から仙台第一高校まで約7kmの道のりを、毎日自転車で、20分ほどの超スピードで通学していました。クラブ活動は中学からサッカー部に所属し、大学卒業まで12年間サッカーに打ち込みました。中学時代は仙台市大会の準決勝で、高校時代は、高校総体の仙台市地区予選の最終戦でいずれも宮城県サッカー場で敗退し、あと一步のところで県大会出場を逃しました。そのリベンジとして臨んだ医学生時代は、6年の時に地元開催の東医体(東日本の医学部34校による総合体育大会)で、因縁深い宮城県サッカー場で優勝を果たすことができました。今では、宮城県サッカー場は解体され、仙台医療センターが聳えています。その時の優勝メダルは私の人生の最高の勲章として、心の中で輝いています。卒業後は、青森県病で2年間の初期研修を過ごし、その後東北大学第一外科に入局し、当院の前管理者の松野正紀教授のもとで、外科医として鍛えられました。大学医局時代は消化管の運動や分泌生理について研究し、一般病院勤務後は胃腸疾患中心に研鑽を重ねてまいりました。30代半ばに2年間のアメリカ留学の機会をいただき、その後、福島県郡山市の寿泉堂総合病院で3年間、引き続き宮城県南部の大河原町に新設されたみやぎ県南中核病院で17年間勤務したのち、2019年1月に当院に異動してまいりました。

当院に勤務して1年ほどになりますが、十和田の大自然と、人々の暖かさにふれ、松野先生が十和田への居住を延長した理由を納得いたしました。4月から丹野先生に引き続いて院長の重責を担うことになりますが、丹野管理者を補佐しながら、職員の皆様方が働きやすい職場環境を提供することにより、市民の皆様様の健康増進に貢献していきたいと思っています。当院に院長として在職できる期間は限られておりますので、具体的には、医療安全と、研修機能の充実に特に重点的に取り組みたいと考えています。病院の機能は、開院からこれまで60年以上の長きに渡って引き継がれてきたものであり、院長が替わったからと言って急激に変えることはできないことは重々承知しております。これまでの当院の長所を残しつつ、日々更新されていく令和の時代に遅れないよう、これまでの他病院での経験を取り入れながら、少しずつ改革を進めていく所存です。職員の皆様のご支援・ご協力があつての十和田市立中央病院ですので、カメレオン病院を目指して、一緒に取り組んでいきましょう。何卒よろしく願いいたします。

